

1 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別分析と改善点について

文部科学大臣 中央教育審議会 (H26.11.20) 諮問理由から

- ・ 今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。
- ・ そのためには、教育の在り方も一層の進化を遂げなければならない。
- ・ 自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探求し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である。
- ・ 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。

(1) 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項の実現状況、課題等

国語 4 年 A  (一) (二) 紹介するために文章を読む Cイ, エ

(一) 目的に応じて文章中のどの段落を読めばよいかを自ら判断する。 正答 58.9%

【問題】 ふろしきの良いところとして、特に繰り返し利用できることを詳しく紹介するためにどの段落をよく読めばよいでしょう。

(二) 問われたことに対して情報を正確に取り出す 正答 78.2%

国語 4 年 B  (一) (二) 紹介したい物語を取り上げて説明する Cウ, エ

(一) 物語の内容を正確にとらえて読む。 正答 73.7%

(二) 物語を目的に応じて要約して読み、あらすじをとらえる。 正答 44.5%

【問題】 自分が感じた物語の面白さを読書新聞で伝えるために、物語の「あらすじ」を書こうとしていますが、最もふさわしいものを一つ選びなさい。

(2) 今回の改訂で新設、学年を超えて移行した事項の実現状況、課題等

第 4 学年の清音のローマ字を読むことについては、86.6%であり相当数の児童ができているが、書きについては、清音に比べて促音の表記に課題が見られる。

(清音 : tokei → 通過率 65.6%) (促音 : kitte → 通過率 35.7%)

(3) 従来より課題と指摘される事項の実現状況、課題等

第 4 学年において、物語の内容を把握したり、目的に応じて引用したり要約したりする能力を見る [4 B ] と、読書に対する態度を見る児童質問紙調査 2 「好きな物語やシリーズの本はありますか」とのクロス集計を見ると、「たくさんある」と回答した児童の通過率と、「ない」と回答した児童の通過率との差は、設問 (一) (二) (三) のいずれも、10 ポイント以上である (もっとも差の大きい [4 B  (二)] では、19.3 ポイントの差)。

(4) 質問紙調査から

「国語の学習が好きだ」の問いに対して肯定的に回答している児童の割合は、第 4 学年は 63.4%、第 6 学年は 54.4%である。(国語は全教科の中で一番低い)

「好きな物語やシリーズの本はありますか」(第4学年)の問いに対して肯定的に回答している児童ほど、「言葉を適切に選択すること」、「場面の移り変わりをとらえること」、「要約すること」といった「読むこと」の設問における通過率が高い傾向がうかがわれる。

## 2 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

### (1) 児童自身が目的や必要感をはっきりと意識して取り組める言語活動の設定

- ・ 児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起する学習指導の工夫が重要である。
- ・ 児童の課題意識をかき立てる言語活動を単元に位置付けて指導を行うことが重要である。

### (2) 指導のねらいにふさわしく、かつ、児童自身にとっての課題解決の過程となるような、単元を貫く言語活動を位置付けた学習過程の工夫

- ・ 児童自身が課題解決に必要な知識や技能だという認識を十分に持てる状況においてこそ、それらが活用可能なものとして身に付く。

### (3) 場面や状況、必要な条件などを踏まえて話したり聞いたり、書いたり読んだりする学習指導の工夫

- ・ どのような情報を知りたいのか、どのような場面や状況、条件を踏まえるべきなのかといったことを常に念頭に置きながら、情報を求めたり表現したりできるよう、児童自身が学習の見通しを立てる活動を単元や単位時間に明確に位置付けることが必要である。
- ・ また、課題解決に向けて学んだことは何か、どのようなことができるようになったのかといったことを、学習指導のねらいに即して振り返ることができるような活動を位置付けることも重要である。

### (4) 読書に親しむ態度を育成する指導の充実

- ・ 読書活動を朝読書等に位置付けることにとどまらず、指導のねらいを明確化しつつ、国語科の授業に明確に位置付けることが求められる。
- ・ 教科書教材と関連させて、どのような作品や文献等を並行読書材としてそろえるかといった視点で教材研究を行うことも必要である。
- ・ 国語科における読書活動は、あくまでも国語科のねらいを実現するための手立てとして取り入れるものであることを踏まえ、特定の読書活動を行うことが目的化することのないよう留意する必要がある。

### (5) 本の題名や見出し、目次や索引などを用いて、主体的に情報を活用するための系統的な指導の充実

- ・ 単に検索方法の知識を取り出して指導するのではなく、課題解決の過程の中で、情報検索が必要な場面を設定して指導することに留意する必要がある。

### (6) 6年間の系統性を見通し、各教科等との関連を図った指導計画の作成

- ・ 一つの単元をどう指導するかだけではなく、6年間を見通した上で、より重点的・系統的な指導を工夫することが求められる。
- ・ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」における年間を見通した指導と評価の事例等を参考にしつつ、年間を見通して当該単元で取り上げる指導事項等を明確にして指導を行うことが有効である。
- ・ 国語科で身に付けた国語の能力を、各教科等の学習において活用したり、各教科等の学習場面と効果的に関連させたりするなどして、単元を貫く言語活動を効率的に設定し、指導の効果を高めることも大切である。